

# あかるく かしこく たくましく

令和6年9月11日 No. 20 文責：校長 佐野紳二

## 全国学力学習状況調査の結果から

今年も7月29日に、4月に実施された全国学力学習状況調査(以下、全国学調)の結果が公表されました。それを受けて、本校でも9月中旬には、個々の採点結果と南アルプス市および本校の結果分析を6年生に配付させていただく予定です。昨年も何度か学校通信で学力について書かせていただきましたが、今回は今年の全国学調の問題や全国の児童の解答結果(本校の児童ではありません)から、今、子どもたちに求められている「学力」について考えてみたいと思います。

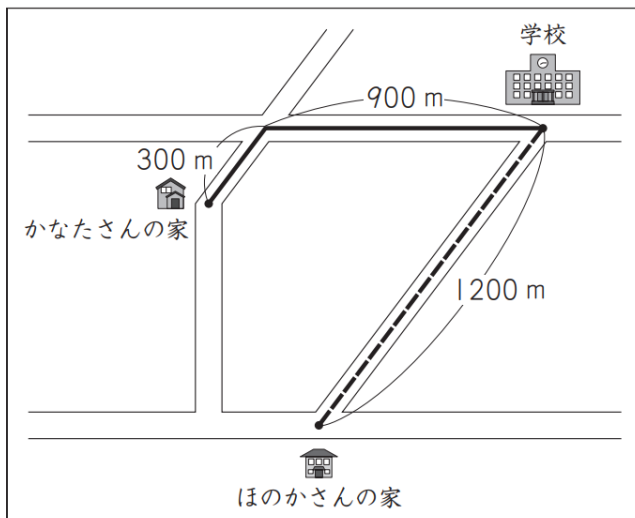
今年の全国学調の問題は、国立教育政策研究所のホームページ等で見ることができます。右のURLからアクセス可能です。 <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

## 相手に伝わるように表現する力

次の問題は、今年の全国学調の中でも最も正答率の低かった問題です。算数の図形の問題です。

かなたさんとはのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いていきました。

家から学校までの道のり



学校から家までの道のりは、左の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとはのかさんのどちらが速いのですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん                      2 ほのかさん

かなたさんとはのかさん、二人の歩く速さを比較する問題です。速いのはかなたさんの方なのですが、説明の仕方には2通りの方法があります。

1つ目は2人の歩く速さ(分速)を求めて比較する方法です。速さは「道のり÷時間」で求めることができるので、以下のように説明することができます。

かなたさん	$(900 + 300) \div 20 = 60$ (m/分)
ほのかさん	$1200 \div 24 = 50$ (m/分)    なので、かなたさんが速い

2つ目はそれぞれの家から学校までの道のりが等しいことを説明したうえで、かなたさんのほうがかかった時間が短いことを説明する方法です。

例) かなたさんの家から学校までの道のりと、ほのかさんの家から学校までの道のりはどちらも1200mで等しい。同じ道のりを歩いたのにかなたさんは20分で学校まで到着し、24分かかったほのかさんよりも早く学校に着いたので、かなたさんの方が速い。

この問題の解答を詳細に見ていくと、「かなたさんの方が速い」と答えている児童は全体の62.4%で、半数以上の児童が正しい答えを出していることが分かります。にもかかわらず、この問題の正答率が低いのは、「なぜかなたさんの方が速いのか、理由を正しく説明できていない児童が多いから」ということになります。さらに見ていくと、誤答で最も多かったのは「かなたさんとほのかさんの歩いた道のりが等しいから」という答え（道のりのみに触れ、かかった時間について説明していない）だったそうです。そこから推測できるのは、小学生の多くが「二人の速さの比較は正しくできているが、自分の考えを適切に伝えることができていない」ということだと思います。



これまでの全国学調の問題と同様に、今年の問題でも国語、算数ともに「わけを書きましょう」「説明しましょう」という問いが多く出題されました。今の子どもたちには「根拠を明らかにしてものごとを説明する力」が求められているわけです。

同じ今年の全国学調で国語の結果を見ると、やはり正答率の低かった問題のひとつに【物語】問題はとても長いので掲載はしませんが、国語の3の問題の三の設問になります。興味がある方は、ぜひ最初に示したURLから全国学調の問題をご覧になっていただき、一緒に考えてみてください。

これらを受けて、山梨県では国語・算数それぞれに「目指す児童生徒の姿」を以下のように決めました。

小学校国語：物語などを読み、複数の叙述を結び付けて考えることができる児童  
小学校算数：数学的な表現を用いて筋道を立てて考察し、説明できる児童

こうした児童像を実現することができるよう、本校でも日々の授業のあり方について、教員は日々研究を重ね、授業改善に取り組んでいます。その一端として、小笠原小学校では昨年度からの2年間、南アルプス市教育委員会から「学びの質を高める授業づくり推進事業」の指定を受け、研究に取り組んでいます。10月31日（木）には、2年間の研究の成果を発表するための公開研究会を開催し、南アルプス市内外の教育関係者の皆様からご指導・ご助言をいただくことになっています。

**オマケの話** 今年の全国学調の国語の問題で、最も正答率が低かったのは、昨年度に引き続き漢字を書く問題で、「きょうぎの作戦を考えたりします。」のきょうぎを漢字でいねいに書くという問題でした。漢字を正しく書くという問題は、いつの時代も子どもたちにとっては難しい問題のようですが、特に活字離れ、筆記用具離れ（ワープロソフトの利用率向上）の世の中になり、その傾向に拍車がかかっているのかもしれない。



でも、ひょっとしたら子どもたちが大人になる頃には「漢字を書く」ということ自体が不要になる可能性も無きにしも非ずなのかなあ…なんて、思う昨今でもあります。

9月4日付の山梨日日新聞に、夏休みに行われた「関西子ども探検隊」の記事が3面にわたって紹介されていました。高速道路管制センターの見学に行った班には、本校の5年生の女の子も一員として参加していて、写真と感想文が紹介されていました。なお、「関西子ども探検隊」の様子は、7日（土）にはYBSテレビでも放送されたそうです。きっと、ご覧になられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。